

論文内容要旨

論文題名 慢性心不全高齢患者における入院中の心臓リハビリテーションによる再入院回避効果

掲載雑誌名 心臓リハビリテーション 21 巻 (号数未定) 2016 年 (掲載予定)

内科系リハビリテーション医学専攻 大久保 圭子

内容要旨

【目的】慢性心不全の大部分を占める高齢患者では身体機能の低下のため、入院の長期化や再入院率および死亡率の増加が問題である。従って、高齢慢性心不全入院患者における心臓リハビリテーション(心リハ)の効果の検証が必要である。ところが慢性心不全の同一症例における心リハの効果を、心リハ非介入時と比較した研究は無い。今回、入退院を繰り返す高齢慢性心不全患者に対して、入院中の心リハの介入により、日常生活活動能力が向上し入院日数短縮と再入院の回避がえられるかを検討した。

【方法】本研究は、2011 年 1 月 1 日～2012 年 12 月 31 日までの 2 年間に当院循環器内科に入院し、かつ入院中に理学療法士による心リハを行った 70 歳以上の高齢心不全患者 200 例中、2 回以上入院した 60 例の中で、心リハ介入と心リハ非介入の両者の入院を認め、かつ 2 回目の入院の転帰が死亡退院や転院の症例および複数回とも心リハ介入した症例を除外した 31 例を対象とした後ろ向き研究である。複数回とも心リハ介入した患者や心リハ非介入患者を除外した理由は、本研究の目的が同一患者において、心リハ介入時と心リハ非介入時の効果を比較検討することによる。1 回目の入院時に心リハ介入し、2 回目の入院時は心リハ非介入であった例が 9 例、1 回目の入院時は心リハ非介入で、2 回目の入院時に心リハ介入をした例が 22 例であった。心リハの介入はすべて主治医による判断により実施した。

【結果】

a) 入院時の臨床背景

クリニカルシナリオ 3 が心リハ介入時 4 例、心リハ非介入時 8 例であった。血漿 BNP は心リハ介入時の入院時 1136.0 ± 685.2 pg/ml、入院後最高値 1331.4 ± 778.4 pg/ml、心リハ非介入時の入院時 859.9 ± 600 pg/ml、入院後最高値 979.5 ± 698.5 pg/ml で、心リハ介入時の方が入院時、最高値ともに有意に高値であった。一方、その他の因子には有意な差はなかった。

b) 退院時評価項目と治療内容

入院日数は心リハ介入時、心リハ非介入時で同等であった。退院時の BNP 低下率は心リハ介入時の方が大きく、退院時 BI は心リハ介入時の方が有意に高値であった。

c) 臨床転帰

観察期間中 1 例が心リハ非介入時の退院後に突然死にて死亡した。心不全以外の再入院は腎不全 2 例、消化器疾患 4 例、貧血 1 例、脱水 1 例、間質性肺炎 1 例、脳出血 1 例であった。

Kaplan-Meier 生存分析では、心不全再入院死亡率、再入院死亡率の両者とも、30 日、60 日、90 日、240 日いずれの時点においても心リハ介入時で明らかにイベント発生を回避できた。

【結論】入退院を繰り返す高齢の慢性心不全患者において、入院中の心リハの実施は、退院時の ADL を向上させ、早期の再入院を回避でき、すべての心不全患者に推奨すべき治療である。